

# Book Review

## 日本人に適した 審美修復治療の理論と実際

貞光謙一郎 著



Reviewer

林 揚春 Yoshiharu Hayashi

(東京都・医療法人社団秀飛会優ビル歯科医院)

A4 判変, 232 頁  
オールカラー  
定価 (本体 16,000 円+税)  
医歯薬出版刊



1990年代後半より、審美領域においてオールセラミックスが日常臨床に應用され、最近では、従来の鑄造法による金属焼付ポーセレン冠からCAD/CAMによるオールセラミックスに変わってきた。また、患者自身の審美修復治療に対する意識も年々、高くなっている。このようなときに、貞光謙一郎先生（奈良県奈良市/貞光歯科医院）が出版された『日本人に適した審美歯科治療と実際』はタイムリーな書であると言える。

著者である貞光先生が、本書に書かれているように、Evidence Based Treatmentに基づいた治療も重要であるが、本書ではさらに患者個々に合った適応症の妥当性を考察しながら、学術的指針、実験的指針に沿った長期的な症例結果を臨床的指針として発表している。これらの症例での術前、術後、および長期経過写真を見るだけでも、貞光先生の治療に対するコンセプトである Minimal Intervention の概念に基づいた一貫性のある治療姿勢が窺え、本書は従来の欧米人を基にした審美修復の書とは異なった内容になっている。

本書の目次は下記のとおりとなっている。

### Part 1 Basic for Esthetic Dentistry

- 1 審美修復治療の基本
- 2 資料の分析と治療ゴールの設定
- 3 日本人の歯の特徴
- 4 日本人の歯の特徴に適したマテリアルセレクション
- 5 オールセラミック修復の流れ
- 6 オールセラミック修復の応用症例
- 7 ホワイトニング

### Part 2 Practice for Esthetic Dentistry

- 1 オールセラミッククラウンの支台歯形成
- 2 コンポジットレジン充填
- 3 コンポジットレジンのさらなる活用
- 4 接着
- 5 ラミネートベニアの基本
- 6 日本人に適したラミネートベニア修復
- 7 ラミネートベニア修復症例

Part 1の「Basic for Esthetic Dentistry」では、審美修復治療の基本、資料分析と治療ゴールの設定は、われわれ歯科医師が知っておかなければならない事項であるとし、欧米人とは異なる日本人の歯の特徴と、視覚的歯冠幅径の審美的な比率である黄金比(1:

1.618)と日本人古来の白銀比(1:1.414)との違い、錯視効果の応用に触れるなど実に興味深い内容になっている。

Part 2の「Practice for Esthetic Dentistry」では、基本的なオールセラミッククラウンの支台歯形成、コンポジットレジン充填のステップバイステップ、接着システム、日本人に適したラミネートベニアの形成から修復まで、審美的修復治療の実際が症例を通してわかりやすく記され、明日からの臨床に役立つテクニックが満載である。

最後に、著者が本書で述べているように、歯科医療は包括的に口腔内を観察し、現症に至った原因を究明し、治療計画を立案した後に治療に臨まなければならない。そして機能的な改善を満たすと、おのずと審美的な修復が可能となる。

このことは、われわれ歯科医師が、たった一歯の治療を行ううえでも常に考慮しなければならない事項である。本書は、審美歯科治療に興味を持つ若手歯科医師だけでなく、矯正やインプラント治療を行う専門医や、経験を積んだ歯科医師にとっても必読の書と言える。